

の荷重の軽いときは非常に多く、荷重増加で著しく減ずる。平織は最も少なく荷重の影響はほとんどない。菱形二重織は中間で、三者共 50 g/cm^2 までは層が増えるほど多くなるが 12.5 g/cm^2 では平織以外は減少する。英重別では、 0 g/cm^2 はパイル>菱形二重>平の順で、 50 g/cm^2 では三者間に大差なく、 125 g/cm^2 では逆となる。綿両面パイルと塩ビ(テ)の両面・片面パイルでは吸水率は綿テ両パイル>綿両パイル>綿テ片パイルの順で、層間抱水量は綿両パイル>綿テ片パイル>綿テ両パイルの順となる。

B-36 おむつ用素材の抱水について

福岡女大家政 平松 園江
香蘭女短大 ○塚本 義子

本研究は、おむつに大切な吸水と水の保持を特に布自体と布間に保持する水分に分けて測定し、織り方、荷重、重ね枚数の変化との関係を検討したもので、おむつのあて方、おむつの布の改善に必要なものである。

試料は、綿・塩ビ綿混の3種の織り方の異なる5種を $2\text{ cm} \times 2\text{ cm}$ に切り、吸水測定の場合は1枚、層間抱水の場合は所定の枚数重ね、乾燥重量を $25 \pm 2^\circ\text{C}$, R.H.65 \pm 5%において烏津製直示天秤で測定した。抱水量測定は $2\text{ cm} \times 2\text{ cm} \times 0.5\text{ cm}$ のロー引きガラス上に試料を置き、布中央に注射器先端をあて、過飽和状態になるまで水を注入し3分間垂下後秤量し、これを無荷重とし、次に 12.5 g/cm^2 , 50 g/cm^2 , 125 g/cm^2 を3分間かけ、各荷重下の吸水、抱水量を測定した。布の抱水量は布自体の吸水量と層間を含むと推定する量に分け、層の数と荷重による影響を調べた。

3. 綿布吸水量は g/cm^2 および同一重量当たり共、パイル織>菱形二重織>平織の順で、層内抱水量はパイル